

長年の尽力と功績に 功勞賞と感謝状を贈呈

平成23年度の町勢功勞者表彰式は11月9日、ふれあい宿舎グリーンテージで行われました。町の発展に貢献された長岡宏さんへ功勞賞、町へ大鍋やLEDなどを寄贈した2社に感謝状が、鈴木重男町長から贈られました。



平成23年度 葛巻町町勢功勞者表彰式

功勞賞(防災)

長岡 宏 さん
(70歳・新町)

昭和41年、葛巻町消防団第2分団に入団。地元第2分団長を務めたあと、昭和62年から町消防団の副団長、平成9年からは団長として、卓越した指導力と豊富な識見により、町の防災活動に多大の貢献をされました。



感謝状

株式会社アキヤマ
代表取締役
秋山 照明 さん
(二戸町)

商店街と町の活性化のために、一度に約2500食分を調理できる大鍋など一式、および100万円を寄贈されました。



感謝状

大和ハウス工業株式会社
岩手支店支店長
櫻下 信 さん
(盛岡市)

地球環境に配慮し、省エネルギーを推進するため、町へLED街路灯1100基を寄贈されました。



葛巻コーラルオー



感謝の気持ちを込めて歌うコーラルオーの皆さん

葛巻コーラルオー(林義明会長、会員25人)は11月22日、結成30周年を迎え総合センターで記念コンサートを開きました。初代会長の鳥居京子さんが作詞した「ママ歌ってください」や混声合唱の「翼

30周年 祝 Memorial

をください」など14曲を披露、訪れた約150人の観客は盛んに拍手を送っていました。

昭和56年に葛巻小学校新校舎が完成し、祝賀会で児童の器楽演奏にあわせPTAのお母さんたちが合唱を披露したのが活動のはじまり。以来、町内の式典やイベントなどで歌声を響かせ、花を添えてきました。会員の長倉牧子さんは「長年、指導いただいた先生方や、家族の支えに感謝します」とこれまでの30年を振り返りました。

馬淵川源流太鼓の会 20周年



元氣よく軽快に「源流まつり太鼓」を演奏するジュニアの皆さん

馬淵川源流太鼓の会(遠藤勝広会長、会員41人)は11月12日、結成20周年を記念しグリーンテージで祝賀会を開催、90人が出席しました。同会は馬淵川の源流のまちとして、清流を長く守りたいという願いから、町の観光協会の呼びかけで平成3年に結成。以来、町内外のイベントやお祝いの席などを、力強い和太鼓の演奏で盛り上げてきました。

15人でスタートした会員は、現在ジュニアを含め41人。太鼓の演奏を通じて、地域を担う次世代の育成も着実に進んでいます。遠藤会長は「さらに地域の文化として深める契機にしたい」との抱負を語りました。

20周年 遠別山岳会



設立以来、会長を務める遠藤安信さんに感謝の花束が贈られました

遠別山岳会(遠藤安信会長、会員28人)の設立20周年記念パーティーは11月15日、グリーンテージで開催され会員など35人が出席しました。

同会は平成3年11月に設立。毎年春に遠別岳の登山道の環境整備を行い、平成4年の岩木山(青森県)の登頂をスタートに毎年1度、日本百名山と呼ばれる山へ挑戦しています。同会のモットーは「楽しく山へ登ること」で、夫婦での参加が多いのも特徴のひとつ。遠藤会長は「この会が20年も続くと思ってもいなかったが、山を好きな者同士で続けていきたい」と語りました。

霜が降り、霰が降り、氷が張り、いよいよ冬の季節になりました。
11月から12月にかけての味のある季節として、初めて霜が降りた日が初霜、同じく初霰、初雪などがあります。これから長い冬を過ごすんだなあという詠嘆と、覚悟の気持ちが表れる俳句になるような気がします。

俳句を楽しもう 葛巻俳句会 齊藤誠子さん

人会の皆さんと「俳句で楽しもう」の勉強をしました。基本は五七五と季語をつ入れる約束から始めました。ほとんどの方が俳句は初めてでしたが、なんとお一人で3句ぐらいい作られたようです。皆さんの初めての俳句を紹介いたします。

青空に
紅葉競い
舞い上がる

日のおたる
軒下飾る
柿のれん

葉を落し
紅色染めて
ひと恋し

これが初めての俳句と思えないくらいまとまっていますよね。俳句は誰でもいつからでも始められます。

一つ葉に
初霜の消え
残りたる
高浜虚子
初雪の
たちまち松に
つもりけり
日野草城
(参考本 現代俳句
歳時記 角川春樹編
より)
10月20日の夜、婦